

2021（令和3）年度

地域連携センター一年報

津市立 三重短期大学

目 次

地域連携センター事業を振り返って

I 令和3年度 地域連携事業の概要	・・・	1
1 生涯学習機会の提供		
(1) オープンカレッジ	・・・	2
(2) 地域連携講座	・・・	7
(3) みえアカデミックセミナー2021	・・・	9
(4) 出前講座	・・・	10
(5) プログラミング講座	・・・	12
(6) 講座開催一覧	・・・	13
(7) 国家試験対策講座	・・・	15
(8) 科目等履修生制度	・・・	16
2 高等学校等との連携		
(1) 高大連携校との高大連携事業	・・・	17
(2) 高大連携協定調印	・・・	18
3 産学連携の推進		
(1) 株式会社三十三銀行及び株式会社三十三総研との産学連携	・・・	19
(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用	・・・	24
(3) ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの連携協定締結	・・・	25
4 市政との連携		
(1) 政策研究・研修	・・・	26
(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」	・・・	27
(3) 審議会、委員会委員への参画	・・・	29
5 地域の大学との連携		
(1) 三重大学生物資源学部との連携	・・・	36
6 学生による地域連携		
(1) 地域連携サポーター制度	・・・	37
(2) 津市消防団学生機能別団員	・・・	37
(3) 三重短期大学大津波想定避難訓練	・・・	38
(4) 美化デー	・・・	38
(5) 榊原の地域振興を考える会との連携	・・・	39
(6) 三重とこわか国体のぼり旗デザイン作成	・・・	39
(7) 三重とこわか国体弁当メニュー開発	・・・	40
II 資料		
1 施設開放	・・・	42
2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧	・・・	44
3 令和3年度三重短期大学出前講座 テーマ一覧表	・・・	50

地域連携センター事業を振り返って

地域連携センター長 藤枝 律子

本学は、津市が設置する公立短期大学として、従来から「地域に開かれた大学」を目指してきた。大学の理念にも「地域貢献の理念」を掲げて、「津市が設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え生涯教育の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する」ことを大学の責務として謳っている。この地域貢献の理念を実現するため、2008年4月に、地域連携及び地域貢献事業を所掌する総合窓口として「地域連携センター」を設立し、教員のセンター長の他に担当の事務職員が配置された。

「地域連携センター」は、設置目的のなかに、「三重短期大学は、少子高齢化時代の福祉の充実、生涯学習ニーズの高まり、情報化の高度展開など地域の抱える課題を常に念頭において、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体の政策課題等の研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、地域社会や住民との連携・交流を重視し、市民文化の向上と地域・産業の活性化に貢献することをめざしてまいります」と宣言するとともに、「生涯学習機会の提供」、「高等学校との連携」、「産学官連携の推進」、「市政との連携」、「地域の大学との連携」、「学生ボランティア活動の支援」を所掌事業として掲げている。

生涯学習のための教育プロジェクトとして、本学では「オープンカレッジ」と「地域連携講座」を開講する他、「出前講座」も実施している。「オープンカレッジ」は、本学の教員が講師となって市民の方に大学の講義を気軽に体験していただくことを狙いとして、7月から11月に、毎月1回、土曜日に2講座ずつ開催する連続講座である。「地域連携講座」は、学外から講師を招き、本学の教員がコーディネーターとなって、地域の身近な話題を市民の方に専門家が分かりやすく解説することを狙いとして、年2回の開催をしている。「出前講座」は、本学教員の研究や社会活動の中から講演可能なテーマを事前に設定し、市民の要望に応じて、教員が出向いて講演・解説などを行うものである。概ね15名程度以上の参加が見込めるグループ・団体が開催する三重県内の集まりを対象としている。いずれの講座も、年々受講者が増えており、市民の間に定着してきたと言える。

本学は、2008年3月に三重県立亀山高校と初めて高大連携協定を締結したのち、2010年3月に三重県立津商業高校と、同6月に三重県立相可高校と、2012年1月に三重県立みえ夢学園高校、三重県立久居高校と、そして2022年3月には、三重県立津東高等学校と高大連携協定を締結し、現在協定締結校は6校となっている。一方、株式会社三十三銀総研（旧三重銀行総研）から資金を得て、三十三銀総研と本学の共催で、学生を対象とした「小論文コンクール」を2007年から毎年開催している。2016年度より、「小論文・作品コンクール」と名称を変更し、レシピやデザインでの応募もできるようになり、いずれの学科の学生も参加しやすい形態にしたことから、年々応募数が増加してきている。「政策研究・研修」は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、自治体職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決に当たるとともに、より戦略的な政策の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的としており、連携センター設立当初から実施している事業である。

2015年度に文科省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に三重大学の事業が採択され、本学もこの事業協力機関として参加するとともに、2016年度には、三重県内の13高等教育機関と県は、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現するため、「高等教育コンソーシアムみえ」が設立され、本学も一定の役割を果たしている。

このように地域連携センターの事業は年々拡大してきているが、それを持続可能なものにするには事業を支える組織の強化が不可欠である。今後は、この点への取り組みが課題となるように思われる。

2022年12月

I 令和3年度 地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の6つの柱のもと、令和3年度は次のような取組を進めた。

三重短期大学地域連携センター

本学では、1952（昭和27）年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008（平成20）年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の6つに整理した。

(1) 生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

(2) 高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

(3) 産学連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業やNPOとの連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

(4) 市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

(5) 地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の4つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

(6) 学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

1 生涯学習機会の提供

本学では、平成19年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成24年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。そして平成30年度からは、小中学生向けに「プログラミング講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多くの利用があった。

その他、今年度より地域貢献として、三重県内の免許取得者を対象としたリカレント教育講座と位置づけ、本学卒業生および一般市民を対象とした「社会福祉士国家試験対策講座」「栄養管理士国家試験対策講座」を開講した。

(1) オープンカレッジ

市民の方が大学の講義を気軽に体験できるよう、引き続きオープンカレッジを開設した。

月1回2講義を5か月間、本学教員がアラカルト形式にて実施し、全10講義のうち8講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

ア 日銀の金融政策の限界～異次元の金融緩和の功罪～

- ① 開催日時 令和3年7月3日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 日本銀行は黒田東彦総裁が就任した2013年以降、アベノミクスの一環として「異次元の金融緩和」を実施しています。しかし、金融緩和の目的であるインフレ率2%の達成は現在に至るまで果たされず、副作用の心配が指摘されている状況です。ふだん、日銀の役割、金融政策の現状を意識することは少ないと思いますが、この機会に一緒に考えてみませんか。
- ④ 参加者数 47名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 石原 洋介



イ コミュニティと住民参加

- ① 開催日時 令和3年7月3日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代にその必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業や公園づくりのワークショップを事例に、コミュニティの形成などに向けた、住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。
- ④ 参加者数 46名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 教授 小野寺 一成



ウ 獣害問題を考える

- ① 開催日時 令和3年8月7日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 2019年、東京の市街地にイノシシが出現したことは、獣害問題はもはや「田舎の問題」に限定されない、日本社会全体の問題と化しつつあることを示している。本講座においては、獣害問題が顕在化してきた背景について説明するとともに、人間と野生動物とのかかわりが提起する思想的・倫理的な課題についても考えていく。
- ④ 参加者数 45名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 教授 南 有哲



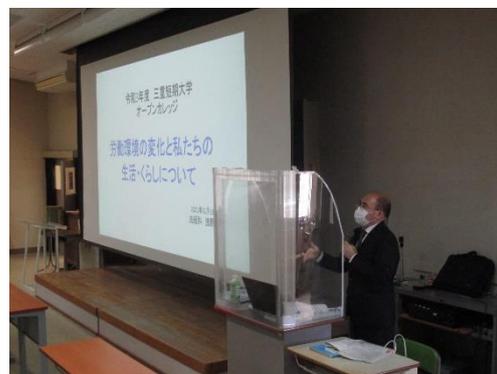
エ マーケティング理論を日常生活に落とし込む～大学教育における私の実践方法～

- ① 開催日時 令和3年8月7日(土) 午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 21世紀到来と同時に世の中はデジタル化社会へと変化していき、学校教育では単に知識を得るから知識を自分自身で活用する指導方法へと変化している。そこで本講義では「マーケティング理論を日常生活に落とし込む」ことをテーマとして掲げ、大学教育における私の実践方法を公開する。
- ④ 参加者数 40名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 講師 鷲尾 和紀



オ 労働環境の変化と私たちの生活・暮らしについて

- ① 開催日時 令和3年9月4日(土) 午後1時30分～午後3時
→コロナ蔓延の為12月11日(土)に延期実施
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 最近、大手企業経営者は日本的雇用の維持が困難であると強調しています。その一方で人口減少による消費の縮小・労働者不足・老後の年金等、こうした問題は日々の労働の状況と密接な関わりがあります。本講義では、日本が直面している様々な問題について「労働」の側面から考えつつ、社会をよりよくしていくために必要なこととは何か、考えてみたいと思います。
- ④ 参加者数 38名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 准教授 浅野 和也



カ 感情の心理学

- ① 開催日時 令和3年9月4日（土）午後3時15分～午後4時45分
→コロナ蔓延の為12月11日（土）に延期実施
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 人には喜び、悲しみ、怒り、恐怖など様々な感情があります。対人関係においては好き、嫌い以外に、恥ずかしさや嫉妬を感じることもあります。この講義では、感情が生起する仕組みやその機能、感情の個人差について解説します。
- ④ 参加者数 43名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 准教授 高橋 彩



キ 健康の維持増進のために！生活習慣病予防対策

- ① 開催日時 令和3年10月2日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 食生活をはじめとする健康に影響を及ぼす生活習慣の改善策について幅広くお話をいたします。またメタボリックシンドロームと特定保健指導について、事例も交えながら解説いたします。
- ④ 参加者数 41名
- ⑤ 担当教員及び講師 食物栄養学科 助教 服部 知美



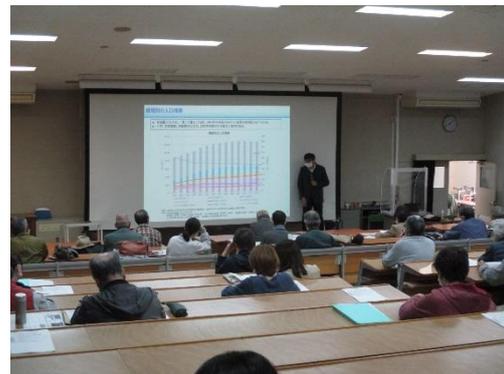
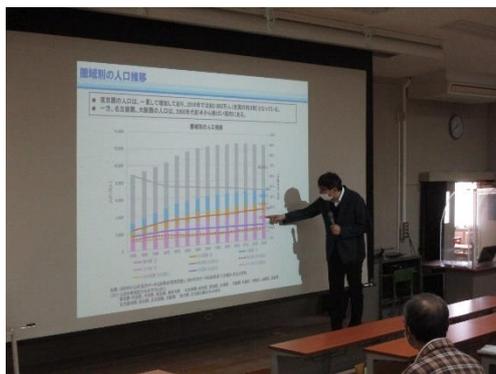
ク 労働組合を活用する方法

- ① 開催日時 令和3年10月2日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 日本国憲法は、勤労条件に関する基準を法律で定めること（27条2項）で十分とするのではなく、勤労者の団結権・団体交渉権・団体行動権（28条）をも保障しています。そこで、本講座では、労働組合を活用し、自分自身でも、よりよい職場を形成していく方法について、皆さまとともに考えます。
- ④ 参加者数 40名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 講師 西川 昇吾



ケ 東京一極集中はなぜ止まらないのか？

- ① 開催日時 令和3年11月6日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 なぜ東京一極集中は止まらないのでしょうか。その要因を政府や東京都の政策を読み解くことで考えていきます。また以外にもよく知られていない独特な行財政制度である都制度についても併せて解説していきます。
- ④ 参加者数 40名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 准教授 川上 哲



コ 集まって暮らす住まい

- ① 開催日時 令和3年11月6日(土) 午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 少子高齢化や近隣関係の希薄化が進むなか、介護や子育て、災害時の不安などから、集まって暮らすことの価値が見直されています。集まって暮らすことの意義や住まいの作り方について、事例を通して考えていきます。
- ④ 参加者数 36名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 教授 木下 誠一



(2) 地域連携講座

ア コンビニ問題を考える～身近なコンビニで、今、何が起きているのか。

- ① 開催日時 令和3年9月5日(日) 午後1時30分～午後2時30分
→コロナ蔓延の為12月5日(日)に延期実施
- ② 会場 41番教室
- ③ 内容 24時間営業、食品ロスなど様々なコンビニ問題を新聞やテレビでご覧になった方は多いのではないのでしょうか。このコンビニ問題に対処すべく、経済産業省や公正取引委員会が活発や動きを見せています。それでは、コンビニ問題とは一体何でしょう。身近なコンビニで、今、何が起きているのか、そして、その問題をどのように解決すべきなのかを解説します。
- ④ 参加者数 37名
- ⑤ 講師 木村 義和(愛知大学 法学部 准教授)
- ⑥ 担当教員 法経科 准教授 川上 生馬



イ フランチャイズに関する法的規制と課題

- ① 開催日時 令和3年9月5日（日）午後2時30分～午後3時30分
→コロナ蔓延の為12月5日（日）に延期実施
- ② 会場 41番教室
- ③ 内容 コンビニ、飲食店、学習塾、さらには介護事業まで、私たちの回りには数多くのフランチャイズビジネスが存在し、フランチャイズは今や日常生活に不可欠なまでに浸透しています。しかし、巷にあふれ身近な存在ということは、そのぶん本部と加盟者の間で多くのトラブルが発生しているということでもあります。そこで、フランチャイズビジネスにまつわる代表的な法的トラブルを取り上げ、解説致します。
- ④ 参加者数 37名
- ⑤ 講師 矢島 秀和（白鷗大学 法学部 准教授）
- ⑥ 担当教員 法経科 准教授 川上 生馬



ウ 生活困窮者支援と地方自治体の課題

- ① 開催日時 令和3年10月9日（土）午後1時30分～午後3時30分
→コロナ蔓延の為12月12日（日）に延期実施
- ② 会場 41番教室 ※オンラインにて実施
- ③ 内容 2015年から「生活困窮者自立支援制度」が実施されています。生活に困窮した状況というのは、様々な要因が複合的に重なりあっており、何か一つを解決すれば解消するというものではなく、極めて個別的な対応が求められます。この制度の実施主体は地方自治体です。全国各地の生活困窮者支援の現場の話も交えながら、支援のあり方や地方自治体の課題について考えます。
- ④ 参加者数 31名
- ⑤ 講師 坂本 毅啓（北九州市立大学 地域創生学群 准教授）
- ⑥ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織



(3) みえアカデミックセミナー2021

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成8年に県内4年制大学による「三重6大学公開講座」としてスタートし、平成16年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し15の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。(※担当者会議資料(三重県生涯学習センター作成)等から)

- ① 開催日時 令和3年7月27日(火)午後1時30分～午後3時20分
- ② 会場 三重県文化会館 レセプションルーム
- ③ 内容 講演 演題 現代貨幣理論を考える
- ④ 概要 最近になり、特に欧米で注目されている現代貨幣理論はどういう考えであるのかを見ていきます。また、現代貨幣理論の主張は熱狂的な肯定も強い否定も受けており、その両方の立場について考えていきます。最後に、現代貨幣理論に基づく政策を実施した場合の政治的帰結について検討します。
- ⑤ 参加者数 52名
- ⑥ 担当教員 法経科 講師 田添 篤史



(4) 出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を2012（平成24）年度に開設した。（内容は「資料」の令和3年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

ア いろいろな食中毒と予防方法

- ① 開催日時 令和3年6月22日（水）午前9時30分～午前11時30分
- ② 会場 村主公民館
- ③ 参加者数 15名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 橋本 博行

イ 食事をバランスよく食べよう！

- ① 開催日時 令和3年7月14日（水）午後1時30分～午後3時00分
- ② 会場 中央公民館
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 阿部 稚里

ウ 人工知能の現状と近い将来

- ① 開催日時 令和3年7月27日（火）午後1時30分～午後3時00分
- ② 会場 ハイトピア伊賀
- ③ 参加者数 60名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 笠 浩一郎

エ 骨の健康を守るために

- ① 開催日時 令和3年8月20日（金）午前9時30分～午前11時30分
- ② 会場 南が丘会館
- ③ 参加者数 23名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 講師 杉野 香江

オ 消費税増税を再考する

- ① 開催日時 令和3年8月21日（土）午前10時00分～午前11時30分
- ② 会場 ZOOM（コープみえ津南センター）
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 法経科 教授 大畑 智史

カ 都市計画とまちづくり～持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けて～

- ① 開催日時 令和3年9月29日（水）午前10時00分～午前11時30分

- ② 会 場 明和町中央公民館
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 小野寺 一成

キ 食事をバランスよく食べよう

- ① 開催日時 令和3年10月13日(水) 午後1時30分～午後3時00分
- ② 会 場 片田公民館
- ③ 参加者数 40名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 阿部 稚里

ク 病院で「もうすぐ退院です」と言われて慌てないために…

- ① 開催日時 令和3年10月28日(木) 午前9時30分～午前11時30分
- ② 会 場 橋北公民館
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 武田 誠一

ケ 働く前に知っておきたい社会保障のこと

- ① 開催日時 令和3年11月10日(水) 午前9時50分～午前11時40分
- ② 会 場 朝明高等学校
- ③ 参加者数 15名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝

コ 自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学

- ① 開催日時 令和3年10月29日(金) 午後1時00分～午後2時30分
- ② 会 場 三重県農業大学校
- ③ 参加者数 24名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 高橋 彩

サ 三重県の食状況について

- ① 開催日時 令和3年10月29日(金) 午後2時40分～午後4時10分
- ② 会 場 三重県農業大学校
- ③ 参加者数 24名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 准教授 駒田 亜衣

シ 自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学

- ① 開催日時 令和3年10月29日(金) 午後3時30分～午後5時00分
- ② 会 場 津東高等学校図書館
- ③ 参加者数 25名

- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 高橋 彩

ス 社会保障制度（国民健康保険）について

- ① 開催日時 令和3年11月15日（月）午後1時00分～午後3時00分
② 会場 鈴鹿市役所 本館14階 議場
③ 参加者数 45名
④ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝

セ 人を援助する「私」を知る

- ① 開催日時 令和3年12月6日（月）午前10時30分～午後12時00分
② 会場 アストプラザ
③ 参加者数 15名
④ 担当教員 生活科学科 准教授 武田 誠一

ソ 地域で高齢者の生活を支えるために私たちができること

- ① 開催日時 令和4年1月19日（水）午前10時00分～午前11時30分
② 会場 桜が丘集会所
③ 参加者数 20名
④ 担当教員 生活科学科 准教授 武田 誠一

タ 骨の健康を守るために

- ① 開催日時 令和4年2月2日（水）午後1時30分～午後3時30分
② 会場 中央公民館
③ 参加者数 30名
④ 担当教員 食物栄養学科 講師 杉野 香江

チ コロナ禍における生活習慣病の予防

- ① 開催日時 令和4年2月21日（水）午後1時30分～午後2時30分
② 会場 津地方家庭裁判所
③ 参加者数 25名
④ 担当教員 食物栄養学科 助教 服部 知美

(5) プログラミング講座

平成30年度より、小学校4年生から中学校2年生までを対象に、Scratchを用いた初心者向けプログラミング講座を開設した。なお、本年度はコロナウイルス感染症拡大により本年度の実施を中止した。

(6) 講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者 (人)
オープン カレッジ	日銀の金融政策の限界～異次元の金融緩和の功罪～	7月3日(土)	41番教室	47
	コミュニティと住民参加	7月3日(土)	41番教室	46
	獣害問題を考える	8月7日(土)	41番教室	45
	マーケティング理論を日常生活に落とし込む～大学教育における私の実践方法～	8月7日(土)	41番教室	40
	労働環境の変化と私たちの生活・暮らしについて	12月11日(土)	41番教室	38
	感情の心理学	12月11日(土)	41番教室	43
	健康の維持増進のために！生活習慣病予防対策	10月2日(土)	41番教室	41
	労働組合を活用する方法	10月2日(土)	41番教室	40
	東京一極集中はなぜ止まらないのか？	11月6日(土)	41番教室	40
	集まって暮らす住まい	11月6日(土)	41番教室	36
地域連携講座	コンビニ問題を考える～身近なコンビニで、今、何が起きているのか。	12月5日(土)	41番教室	37
	フランチャイズに関する法的規制と課題	12月5日(土)	41番教室	37
	生活困窮者支援と地方自治体の課題	12月12日(土)	41番教室	31
みえアカデミックセミナー	現代貨幣理論を考える	7月27日(火)	三重県文化会館レセプションルーム	52
出前講座 (高大連携事業を除く)	いろいろな食中毒と予防方法	6月22日(水)	村主公民館	15
	食事をバランスよく食べよう！	7月14日(水)	中央公民館	30

	人工知能の現状と近い将来	7月27日(火)	ハイトピア伊賀	60
	骨の健康を守るために	8月20日(金)	南が丘会館	23
	消費税増税を再考する	8月21日(土)	ZOOM(コープみえ津南センター)	30
	都市計画とまちづくり～持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けて～	9月29日(水)	明和町中央公民館	20
	食事をバランスよく食べよう	10月13日(水)	片田公民館	40
	病院で「もうすぐ退院です」と言われて慌てないために…	10月28日(木)	橋北公民館	30
	働く前に知っておきたい社会保障のこと	11月10日(水)	朝明高等学校	15
	自分はどんな性格なの? パーソナリティ心理学	10月29日(金)	三重県農業大学校	24
	三重県の食状況について	10月29日(金)	三重県農業大学校	24
	自分はどんな性格なの? パーソナリティ心理学	10月29日(金)	津東高等学校図書館	25
	社会保障制度(国民健康保険)について	11月15日(月)	鈴鹿市議会事務局	45
	人を援助する「私」を知る	12月6日(月)	アストプラザ	15
	地域で高齢者の生活を支えるために私たちができること	1月19日(水)	桜が丘集会所	20
	骨の健康を守るために	2月2日(水)	中央公民館	30
	コロナ禍における生活習慣病の予防	2月21日(月)	津地方家庭裁判所	25
出前講座 (高大連携 事業)	重量認知差試験、棒反応試験	10月14日(木)	相可高等学校	57
	製菓実習(相可教員)	11月17日(水)	三重短期大学	19
	製菓実習(相可教員)	12月1日(水)	三重短期大学	21

(7) 国家試験対策講座

令和3年度より、国家試験受験を希望する本学卒業生を対象に、受験対策や専門分野の知識の向上を目的とした「管理栄養士国家試験対策講座」「社会福祉士国家試験対策講座」を開講した。本学を希望する高校生等に対し、実務経験により管理栄養士及び社会福祉士免許取得を目指す卒業生をサポートする取り組みを実施紹介することで、より本学に関心を持ってもらうことも開講する目的の一つでもある。また、地域貢献として、三重県内の免許取得者を対象としたリカレント教育講座にも位置付けられる。

ア 管理栄養士国家試験対策講座

① 開催日時 令和3年9月10日(金)～10月15日(金)

17:50～19:20、19:30～21:00

② 会場 三重短期大学

③ 受講カリキュラム

日程	受講者数	科目名	講義内容	講師
9月10日 (金)	25	人体の構造と機能及び	①生化学	相川 悠貴
	25	疾病の成り立ち	②解剖生理学・病態学	相川 悠貴
9月24日 (金)	26	食べ物と健康	①食品学総論	橋本 博行
	26		②食品学各論・食品衛生学	橋本 博行
10月8日 (金)	26	基礎栄養学・応用栄養学	①基礎栄養学	杉野 香江
	26		②応用栄養学	杉野 香江
10月15日 (金)	22	臨床栄養学	①臨床栄養学Ⅰ	石橋 智奈美
	22		②臨床栄養学Ⅱ	石橋 智奈美

イ 社会福祉士国家試験対策講座

① 開催日時 令和3年10月8日(金)～11月12日(金)

17:50～19:20、19:30～21:00

② 会場 三重短期大学

③ 受講カリキュラム

日程	受講者数	講義内容	講師
10月8日 (金)	15	①社会福祉論	北村 香織
	16	②社会保障論、地域福祉論	武田 誠一
10月15日 (金)	13	①心理学	高橋 彩
	14	②公的扶助論	武田 誠一
10月29日 (金)	19	①障害者福祉論	北村 香織
	20	②権利擁護と成年後見制度	北村 香織
11月12日 (金)	12	①人体の構造と機能・疾病	武田 誠一
	13	②社会理論と社会システム	武田 誠一

(8) 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成8年度より実施している。

満18歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と1単位当たりの費用が必要となる。

令和3年度の科目等履修生は、前後期あわせて6名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語講読などの語学系科目から法経科、生活科学科の専門科目まで幅広く8科目が選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする一方、現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

(前 期)

科 目	単位	人数
民法Ⅰ	4	1

(後 期)

科 目	単位	人数
民事訴訟法	4	1
民法Ⅲ	2	1
労働法	4	1
刑法	4	1
地方自治法	2	1
まちづくり設計	1	2

(通 年)

科 目	単位	人数
英語講読	2	1
実用英語	2	1

2 高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けたいと願う高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、三重県立津東高等学校と新たに高大連携協定を締結した。また、連携協定を締結している三重県立相可高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

そのほか、高等学校を対象とした連携以外にも、本学附属図書館による市内の中学校での学生によるボランティア活動、司書による図書指導事業を通じた連携にも取り組んでいるが、コロナウイルス感染対策により実施を見送った。

(1) 高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。

ア 相可高等学校との出前講座（会場：相可高等学校）

- ① 日 時 令和3年10月14日（木）午前8時30分～午前12時30分
- ② 講 師 生活科学科 講師 相川悠貴
- ③ 内 容 重量認知差試験、棒反応試験
- ④ 対 象 相可高等学校1・2年生調理師コース57名

イ 相可高等学校との高大連携講座（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 令和3年11月17日（木）午前10時30分～午後1時30分
- ② 講 師 相可高等学校 園部かしこ先生
- ③ 内 容 調理学実習Ⅱ 製菓講座 フルーツロール
- ④ 対 象 食物栄養学科1年生19名

- ① 日 時 令和3年12月1日（水）午前10時30分～午後1時30分
- ② 講 師 相可高等学校 園部かしこ先生
- ③ 内 容 調理学実習Ⅱ 製菓講座 フルーツロール
- ④ 対 象 食物栄養学科1年生21名

(2) 高大連携協定調印

今年度新たに三重県立津東高等学校との高大連携協定を締結し、調印式を行った。

ア 協定締結式

- ① 日 時 令和4年3月7日（月）午後2時～
- ② 場 所 三重短期大学 演習室1
- ③ 出席者 津東高等学校 校長 大森 雅彦
三重短期大学 学長 村井美代子

イ 協定の概要

- ① 教育の連携
- ② スポーツ栄養サポート
- ③ 学生・生徒間の交流
- ④ その他



3 産学連携の推進

平成19年1月、本学と株式会社三重銀行（現・株式会社三十三銀行）及び株式会社三重銀総研（現・株式会社三十三総研）は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文・作品コンクールを引き続き開催したほか、三十三総研より講師を招いた「企業論」の開講等の連携事業を実施した。

また、シーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

(1) 株式会社三十三銀行及び株式会社三十三総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

ア 三重短期大学・三十三総研主催小論文・作品コンクール

株式会社三十三総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文・作品コンクールを実施した。

① 趣旨

三重短期大学と三十三総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文・作品コンクールを実施した。

② テーマ

『with/after コロナ時代の暮らし方～SDGsの視点から～』

③ 応募資格

三重短期大学在学学生（科目等履修生を含む）。共同執筆による応募も可

④ 応募規定

- ・ 応募は1人（共同執筆の場合は1グループ）1作品のみ
- ・ 日本語で書かれた未発表のものに限る
- ・ 文字数は4,000字程度

⑤ 募集期間

令和3年7月1日～令和3年12月13日

⑥ 選考委員

委員長	三重短期大学	学長	村井 美代子
委員	三重短期大学	法経科教授	藤枝 律子
委員	三重短期大学	法経科准教授	田添 篤史
委員	三重短期大学	食物栄養学科准教授	相川 悠貴
委員	三重短期大学	生活科学科教授	木下 誠一

- ⑦ 応募作品（タイトル名）
- 日本の動物保護政策の未来-ドイツ、フランスを手がかりに-
 - 景観利益保全に見る街づくり
 - SDGs の観点から考える新型コロナワクチン
 - 質の高い教育の必要性とそれに対する柔軟な対応
 - コロナ差別をなくすには
 - With/after コロナにおけるオンライン授業継続の可能性
 - 非正規労働者と貧困
 - 教育格差を減らすには～with コロナ時代の教育について考える～
 - ICT の活用による人口の分散で大好きな地元を救う
 - アフターコロナ・ウィズコロナでの観光業の様々な施策について
 - 生理の貧困とフェムテックについて-地域連携への視座-
 - コロナ禍における SDG s に対する個人の取り組み
 - コロナ時代における貧困問題
 - コロナ禍におけるネットワークサービスの発展
 - 日本における貧困の現状
 - 貧困とコロナウイルス
 - SDG s 目標 6 とコロナウイルス
 - 障害者も健常者と偏りのない社会づくり
 - 食品ロスと SDG s
 - SDG s と日本の大学
 - 正規社員と非正規社員の、格差問題について
 - SDG s とコロナ禍で表面化した現実
 - コロナで変わった企業の郵便
 - 水と服
 - コロナ禍の低栄養を防ぐために～栄養士の卵からの提案～
 - 日本における政府の財政政策が導く国民の with/after コロナ時代の暮らし方～SDG s の視点から～
 - 私たちができる地球温暖化対策
 - 閉経後女性の骨量を守る！子大豆もやしを使った韓国風ビビンバ丼
 - アボカドの種まで使ったスムージー
 - 黒ゴマときな粉のスコーン
 - 鮭と小松菜のキッシュ
 - 伊勢茶茶碗蒸し
 - 卵や牛乳を使わないアレルギー対応食 桃プリン～ブランマンジェ風～
 - ベジタブルマーブルカップケーキ
 - 30分でできる！時短パン
 - with/after コロナ時代の暮らし方～SDG s の視点から～

1 食分の免疫力向上献立

おばあちゃんの味！食物アレルギー・ヴィーガンの人でも食べられる発酵あんこのケーキ

美味しく中性脂肪の低下効果あり!!～秋のさんま蒲焼ちらし寿司～

カフェ風ホットケーキサンド

米粉で作る2種のかぼちゃケーキ

中性脂肪がきになるかたでも食べられる、簡単サバ缶グラタン

白みとり豆のゆで汁を使ったプリン

野菜タルト ～煎茶クリーム添え～

ほうとう風パスタ

みんなでヘルシークレープ

野菜のうまみを引き出すしょうがの炊き込みご飯 他

みんな仲良くはんぶんこ！クマさんのハーフケーキ

伊勢茶まるごといただきます

家族でコロナ時代を乗り切ろう！！

丸ごとピーマンのさばカレー雑炊

繋がりと癒しの空間

(全 52 作品)

⑧ 選考結果

【最優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
(代表)森明日香 他 10 名	生理の貧困とフェムテックについて-地域連携への視座-	法経科第1部 経商コース	小論文

【学長賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
江藤 龍	日本の動物保護政策の未来-ドイツ、フランスを手がかりに-	法経科第1部 法律コース	小論文

【優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
加藤 真歩	コロナ禍の低栄養を防ぐために～栄養士の卵からの提案～	食物栄養学科	小論文
楠田瑠々羽	鮭と小松菜のキッシュ	食物栄養学科	レシピ

【新人賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
モレルアリス	繋がりと癒しの空間	生活科学科 居住環境コース	デザイン

【佳作】

氏名	タイトル名	学科	部門
神谷柚依奈	非正規労働者と貧困	法経科第1部 経商コース	小論文
山田 春起	野菜のうまみを引き出すしょうがの炊き込み ご飯 他	食物栄養学科	レシピ
中村 美月	家族でコロナの時代を乗り切ろう！！	食物栄養学科	レシピ

【新人賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
梅森かおり	私たちができる地球温暖化対策	法経科第2部	小論文

⑨ 表彰式

日 時 令和4年1月27日（木）午後2時～午後3時

場 所 三重短期大学 校舎棟4階41教室

表彰者 三重短期大学学長 村井 美代子

株式会社 三十三総研 代表取締役社長 山本 隆司

司 会 三重短期大学法経科 教授 藤枝 律子



(表彰式)

イ 三十三総研より講師を招いた講義

① 講義科目 企業論（起業論）
（専修第二（経済・経営）分野 前期 火曜日5－6限目 受講者数52名）

② 講師 山川 敏
（株式会社三十三総研 コンサルティング部リーダー 主任コンサルタント）

③ 講義のねらい

株式会社三十三総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

④ 授業内容

- ・ 未来を予測し仮説をたてる (1)起業の意義と外部環境把握①
- ・ 同 (2)外部環境把握②
- ・ 同 (3)外部環境把握③と仮説①
- ・ 同 (4)外部環境把握④と仮説②
- ・ お客様の満足を考える
- ・ 事例研究 (1)新製品の考察
- ・ 事例研究 (2)新サービスの考察
- ・ 起業家の成功要因を考える：3つの側面からの考察
- ・ 自分研究：自分の特長、やってみたいこと
- ・ 経営理念の立て方：基本理念と行動理念
- ・ マーケティングと経営戦略 (1)意義
- ・ 同 (2)勝つための仕組みづくり
- ・ 決算書の見方と資金繰り (1)B/S と P/L の仕組み
- ・ 決算書の見方と資金繰り (2)資金繰表の作成と検証
- ・ ビジネスプランの作成 等

(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※ 法経科藤枝律子教授（前地域連携センター長）の内容

藤枝 律子（ふじえだ りつこ）

職名	法経科 教授
授業科目	行政法、地方自治法
キーワード	法治主義、行政の民主的統制
研究テーマ	行政法、教育行政
研究テーマの応用例	行政に対する市民・住民の参加
最近の研究業績	<p>[論説]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方議会改革の取組-三重県議会基本条例を素材に-」三重法経 153号 2020年12月 ・「自治体戦略2040 構想研究会第二次報告の概要と評価」三重法経 152号 2019年12月 ・「住民訴訟による学校事故における教員の個人責任の追及と求償権の行使」三重法経 150号 2018年3月 ・判例評釈「所沢市育休退園処分取消訴訟における退園処分執行停止決定」三重法経 149号 2017年3月 <p>[著書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『転形期における行政と法の支配の省察』共著(法律文化社、2021年6月) ・『地方自治法と住民』共著(法律文化社、2020年5月) ・『判例から考える行政救済法 第2版』共著(日本評論社、2019年9月) ・『コンメンタール行政法 I 行政手続法・行政不服審査法[第3版]』共著(日本評論社、2018年9月)
最近の社会的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年～ 鈴鹿市建築審査会委員 ・2015年～ 四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員 ・2016年～ 三重県行政不服審査会委員 ・2018年～ 鈴鹿市景観審議会・都市計画審議会委員 ・2019年～ 三重県男女共同参画審議会委員
メッセージ	<p>教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。</p>

(3) ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの連携協定締結

平成30年6月に津市との間で締結した包括連携協定に基づき株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブはバレーボールを始めとするスポーツ活動を通じた取組を進めており、2021年の三重とこわか国体を迎え、国体女子バレーボール開催地である津市地域と一体となったスポーツ振興に係る連携を進めることから、三重短期大学とヴィアティン三重女子バレーボールクラブは、スポーツ活動を通じ、教育・人材育成及び地域の活性化を推進することを目的に連携協定を締結しました。

ア 連携協定調印式

- ① 日 時 令和3年7月6日（火）午後1時15分～
- ② 場 所 三重短期大学 演習室1
- ③ 出席者 株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ 代表取締役社長 後藤大介
三重短期大学 学長 村井美代子

イ 協定の概要

- ① スポーツを基軸とした地域活性化への連携
- ② スポーツを通じた教育・人材育成への連携
- ③ 練習会場の提供に伴う連携
- ④ 相互プロモーション活動における連携
- ⑤ 相互の魅力発信における連携



4 市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講したほか、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組む予定で計画を行ったが、新型コロナウイルス感染状況の拡大に伴い参加希望者が無く、今年度の開催は中止となった。

(1) 政策研究・研修

① 目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたり、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

今年度は新型コロナウイルス感染状況の拡大に伴い参加希望者が無く、開催は中止となった。

(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成12年度より開講しており、令和元年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴なども実施して地方行政の理解を深めている。

- ① 講義科目 自治体行政特論 (共通科目 前期 水曜日9-10限)
- ② 担当教員 生活科学科 教授 小野寺 一成
- ③ 受講者数 64名

回	実施日	講義科目(キーワード)等	講師等
1	4月14日(水)	オリエンテーション、津市の概況、防災について	生活科学科 教授 小野寺 一成 政策財務部 【危機管理部 防災室長 上野 功英】
2	4月21日(水)	津市の政策について	政策財務部 【政策課 政策担当副主幹 富永 健之】
3	4月28日(水)	津市シティプロモーション	政策財務部 【広報課 シティプロモーション担当主査 今城 茉莉】
4	5月12日(水)	文化・スポーツについて	スポーツ文化振興部 【スポーツ文化振興部長 倉田 浩伸】 国体・障害者スポーツ大会推進局 【総務企画課 調整担当主幹 上田 雅輝】
5	5月19日(水)	産業振興(商業振興/企業誘致)について	商工観光部 【企業誘致課長 別府 博】 【商業振興労政課長 廣田 耕次】
6	5月26日(水)	産業振興(農林水産業)について	農林水産部 【林業振興室長 藤田 昌也】 【農林水産政策課 獣害対策担当主幹(兼) 農業振興担当主幹 葛井 克昌】
7	6月 2日(水)	津市の教育について	教育委員会事務局 【教育委員会事務局 教育研究支援担当参事(兼)教育研究支援課長 伊藤 雅子】
8	6月 9日(水)	選挙について 津市議会傍聴にむけて	選挙管理委員会 【選挙管理委員会 事務局次長 橋本 直樹】 生活科学科 教授 小野寺 一成

9	6月14日(水) ～6月17日(水)	議会見学(視聴)	
10	6月23日(水)	都市計画について	都市計画部 【都市政策課 都市整備・新都心軸担当 主幹 畠山 和之】
11	6月30日(水)	環境行政について	環境部 【環境政策課 資源循環推進担当副参事 (兼)環境学習センター長 吉田 和史】
12	7月 7日(水)	財政について	政策財務部 【財政課 財政担当主幹 若林 麻衣子】
13	7月14日(水)	津市の福祉について	健康福祉部 【保険医療助成課 フレイル予防推進担当 副参事(兼)健康づくり課 フレイル対策調 整担当副参事 竹森 さわか】
14	7月21日(水)	参加と協働のまちづくりについて	市民部 【地域連携課 調整・広聴相談担当主幹 (兼)対話連携担当主幹 蟻戸 孝明】
15	7月28日(水)	自治体経営(市長)	市長 前葉 泰幸

(3) 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

	氏名	委嘱依頼元	委嘱依頼内容	期間又は期日
1	小野寺一成	津市都市計画部	津市建築審査会委員	令和4年1月1日～ 令和6年12月31日
2	川上 生馬	平城東公民館	「シニアからの教養講座」講師	令和4年2月24日
3	服部 知美	伊勢市教育委員会	伊勢市中学校給食共同調理場調理等業務委託事業者選定に係る概要説明会及びヒアリング審査	令和3年12月27日～ 令和4年1月14日
4	長友 薫輝	三重県国民健康保険団体連合会	国保・高齢者医療・保健・介護担当課長・保健師合同研修会 (オンライン会議)の講演	令和3年12月7日 14時00分～15時30分
5	長友 薫輝	三重県子ども・福祉部	令和3年度こころのバリアフリー推進事業に係る講師	令和3年12月14日 13時00分～15時30分
6	駒田 亜衣	生活協同組合コープみえ	B DHQ (簡易型自記式食事歴法質問票) データ解析	令和3年11月15日～ 令和4年3月20日
7	村井美代子	岐阜市企画部	「岐阜市立女子短期大学のあり方懇談会」への出席	令和3年12月24日 10時00分～12時00分
8	鎌塚 有貴	三重県環境生活部 廃棄物対策局	三重県自動車廃物認定委員会委員	令和3年12月1日～ 令和5年11月30日
9	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市個人情報保護審査会委員	令和4年1月15日～ 令和6年1月14日
10	笠 浩一朗	独立行政法人 日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	令和3年11月1日～ 令和4年10月31日
11	鷺尾 和紀	津地方裁判所及び 津簡易裁判所	民事調停委員	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日
12	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県発達障害者支援地域協議会委員	令和3年12月1日～ 令和5年11月30日
13	川上 生馬	(株)日本評論社	『法律時報臨時増刊 判例回顧と展望2021』への原稿執筆	令和3年10月4日～ 令和4年2月28日
14	武田 誠一	津市健康福祉部 子育て推進課	津市保育所等ICT化推進業務プロポーザル方式審査委員会に係る外部委員	令和3年9月下旬～ 令和4年1月31日 (予定)

15	木下 誠一	松阪市建設部	松阪市景観アドバイザー	令和3年11月1日～ 令和5年10月31日
16	鎌塚 有貴	鈴鹿亀山地区 広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会 鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会 委員	令和3年10月1日～ 令和5年3月31日
17	駒田 亜衣	津市食生活改善推進協議 会	令和3年度津市食生活改善推進員リー ダー研修会における講師	令和3年10月5日 21時30分～22時30分
18	川上 哲	国立大学法人 三重大学	「行政法」非常勤講師	令和3年10月1日～ 令和4年3月31日
19	相川 悠貴	国立大学法人 三重大学	「スポーツ健康科学b」非常勤講師	令和3年10月1日～ 令和4年3月31日
20	武田 誠一	津市健康福祉部 介護保険課	津市介護保険事業等検討委員会委員	令和3年10月1日～ 令和6年9月30日
21	飯田津喜美	放送大学	「食事健康を語る（面接授業）」 非常勤講師	令和3年10月1日～ 令和4年3月31日
22	村井美代子	内閣府 男女共同参画局総務課	男女共同参画推進連携会議議員	令和3年8月16日～ 令和5年8月15日
23	川上 生馬	(株)一学舎	『新ロードマップ民法入門(仮称)2022 年4月発刊予定』への原稿執筆	令和3年5月21日～ 令和4年3月31日 (予定)
24	川上 生馬	三重県農業協同組合中央 会	農業協同組合内部監査士検定試験受験 者研修会の講師	令和3年12月24日
25	木下 誠一	公益財団法人 三重県建設技術センター	公益財団法人三重県建設技術センター 理事	令和3年6月18日～ 令和5年度 (定時評議員会終結時 まで)
26	小野寺一成	津駅周辺道路空間検討委 員会事務局	津駅周辺道路空間検討委員会委員	令和3年7月12日～ 令和4年3月31日
27	高橋 彩	四日市市 市民協働安全課	四日市市市民協働促進委員会委員	委嘱日～ 令和5年3月31日(2 年間)
28	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市情報公開審査会委員推薦	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日
29	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市行政不服審査会委員推薦	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日
30	小野寺一成	尾鷲市 都市計画審議会	尾鷲市都市計画マスタープラン見直し 策定委員長	令和3年6月28日

31	飯田津喜美	(公社) 三重県栄養士会	(公社) 三重県栄養士会学術部生涯教育委員会委員・スポーツ栄養委員会委員	令和3年5月22日より2年
32	飯田津喜美	(公社) 三重県栄養士会	(公社) 三重県栄養士会理事	令和3年5月22日より2年
33	服部 知美	株式会社三十三総研	三十三トピックス 2021/7号 原稿執筆	令和3年6月25日
34	木下 誠一	三重県県土整備部	「盲学校・聾学校建築工事ほか設計業務委託に係るプロポーザル方式技術審査」委員	令和3年6月5日～ 令和4年3月31日
35	武田 誠一	社会福祉法人あゆみ	社会福祉法人あゆみ理事	令和3年6月定時評議員会終了日～ 令和5年6月30日
36	長友 薫輝	三重県 子ども・福祉部 地域福祉課	三重県ひきこもり支援推進委員会委員	令和3年5月31日～ 令和5年3月末日
37	長友 薫輝	社会福祉法人 津市社会福祉協議会	津市地域福祉活動計画推進委員	令和3年6月1日～ 令和5年5月31日
38	木下 誠一	津市 都市計画部都市政策課	津市景観アドバイザー	令和3年6月1日～ 令和4年3月31日
39	武田 誠一	松阪市 健康福祉部介護保険課	松阪市福祉有償運送運営協議会委員	令和3年5月31日～ 令和4年3月31日
40	高橋 彩	公益社団法人 大谷保育協会	「保育心理士資格取得講座(名古屋会場)」講師	令和3年8月28日
41	駒田 亜衣	津保育所施設長連絡協議会	「栄養に関する基礎知識と衛生管理について」研修会講師	令和3年6月21日
42	小野寺一成	津市 計画部都市政策課	津市福祉有償運送運営協議会委員	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日
43	武田 誠一	学校法人新潟福祉医療学園日本こども福祉専門学校	「保健医療サービス」非常勤講師	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
44	川上 哲	皇學館大学	「社会保障論」非常勤講師	令和3年4月15日～ 令和4年3月31日
45	西川 昇吾	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	三重県福祉サービス運営適正化委員会委員	令和2年6月26日～ 令和4年6月25日
46	村井美代子	公益財団法人 日本高等教育評価機構	「短期大学評価判定委員会」委員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日
47	鎌塚 有貴	三重県環境生活部	三重県自動車廃物認定委員会委員	任命日～ 令和3年11月30日

48	川上 生馬	関西学院大学	「法学A」「法学B」非常勤講師	春学期 令和3年4月1日～ 令和3年9月19日 秋学期 令和3年9月20日～ 令和4年3月31日
49	武田 誠一	皇學館大学	「公的扶助論」現代日本社会学部 非常勤講師	令和3年9月18日～ 令和4年3月31日
50	川上 哲	三重県立看護大学	「保健福祉行政論」非常勤講師	令和3年4月1日～ 令和3年9月30日
51	藤枝 律子	四日市市総務部	四日市市情報公開・個人情報保護審査 会委員	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日
52	飯田津喜美	三重大学	「調理実習Ⅱ」非常勤講師	令和3年4月9日～ 令和4年3月31日
53	駒田 亜衣	鈴鹿大学短期大学部	「公衆栄養学」非常勤講師	令和3年10月1日～ 令和4年3月31日
54	長友 薫輝	三重県医療保健部	三重県国民健康保険運営協議会委員	令和3年4月1日～ (3年間)
55	藤枝 律子	三重県環境生活部	三重県男女共同参画審議会委員	令和3年3月16日～ (2年間)
56	浅野 和也	愛知東邦大学	「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」 非常勤講師	前期 令和3年4月1日～ 令和3年9月16日 後期 令和3年9月17日～ 令和4年3月31日
57	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県障がい者虐待防止対策支援事業 に伴う専門家チーム構成員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日
58	長友 薫輝	三重県子ども・福祉部	三重県障がい者差別解消調整委員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日
59	川上 生馬	日本福祉大学	「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」 非常勤講師	令和3年4月1日～ 令和4年2月28日
60	鎌塚 有貴	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡協議会委員	令和3年4月1日～ 令和4年8月19日
61	鎌塚 有貴	津市教育委員会	津市いじめ対策会議委員	令和3年4月1日～ 令和4年11月9日
62	長友 薫輝	桑名市社会福祉事務所	桑名市地域自立支援協議会委員	令和3年3月1日～ 令和5年2月28日

63	田添 篤史	京都大学大学院 経済学研究科	「 Introduction to East Asian Economies」非常勤講師	令和3年10月1日～ 令和4年3月31日
64	木下 誠一	学校法人高田学苑 高田短期大学	「生活の理解Ⅲ」非常勤講師	令和3年10月1日～ 令和4年3月25日
65	浅野 和也	学校法人高田学苑 高田短期大学	「経営管理論」非常勤講師	令和3年4月1日～ 令和3年9月30日
66	川上 生馬	愛知大学	「相続法」非常勤講師（法学部）	令和3年4月1日～ 令和3年9月12日
67	川上 生馬	愛知大学	「担保物権法」非常勤講師（法学部）	令和3年9月13日～ 令和4年3月31日
68	川上 哲	津市市民部	津市市民課窓口等業務プロポーザル方式 審査委員会外部委員	委嘱日～ 令和3年12月28日
69	南 有哲	津市環境部	津市廃棄物減量等推進審議会委員	令和3年1月12日～ 審議終了まで
70	木下 誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会審査部会員	令和3年1月1日～ 令和4年12月31日
71	藤枝 律子	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会委員	令和3年1月1日～ 令和4年12月31日
72	藤枝 律子	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員	令和2年12月6日～ 令和4年12月5日
73	藤枝 律子	桑名市総務課	桑名市行政不服審査会委員	令和2年12月6日～ 令和4年12月5日
74	小野寺一成	四日市市都市整備部	四日市市開発審査会委員	令和2年11月1日～ 令和4年10月31日
75	藤枝 律子	津市教育委員会	津市いじめ対策会議委員	令和2年11月10日～ 2年間
76	小野寺一成	三重県県土整備部	三重県事業認定審議会委員	令和2年9月19日～ 令和4年9月18日
77	木下 誠一	三重県県土整備部	「三重県開発審査会」委員	令和2年9月14日～ 令和4年9月13日
78	北村 香織	三重県こども・福祉部	三重県社会福祉審議会委員	委嘱日～ 令和5年6月30日
79	藤枝 律子	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡協議会委員	令和2年8月20日～ 令和4年8月19日
80	藤枝 律子	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	三重県福祉サービス運営適正化委員会委員	令和2年6月26日～ 令和4年6月25日

81	石原 洋介	三重県農林水産部	三重県地方卸売市場運営協議会委員	令和2年7月1日～ 令和4年6月30日
82	藤枝 律子	亀山市総務部	亀山市行政不服審査会委員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日
83	藤枝 律子	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市都市計画審議会委員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日
84	小野寺一成	三重県公共事業 総合推進本部事務局	三重県公共事業評価審査委員会委員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日
85	村井美代子	文部科学省高等教育局	大学設置・学校法人審議会（大学設置 分科会）委員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日
86	藤枝 律子	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市建築審査会委員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日
87	武田 誠一	三重県介護支援 専門員協会	三重県介護支援専門員協会専門研修委 員会委員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
88	大畑 智史	三重県出納局	三重県政府調達苦情検討委員会委員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日
89	藤枝 律子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市個人情報保護審査会委員	令和2年1月15日～ 令和4年1月14日
90	小野寺一成	津市都市計画部	津市建築審査会委員	令和2年1月1日～ 令和3年12月31日
91	藤枝 律子	津市都市計画部	津市建築審査会委員	令和2年1月1日～ 令和3年12月31日
92	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県発達障害者支援地域協議会委員	委嘱日～ 令和3年11月30日
93	藤枝 律子	三重県環境生活部	三重県自動車廃物認定委員会委員	令和元年12月1日～ 令和3年11月30日
94	藤枝 律子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市情報公開審査会委員	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日
95	藤枝 律子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市行政不服審査会委員	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日
96	木下 誠一	松阪市建設部	松阪市景観アドバイザー	令和元年11月1日～ 令和3年10月31日
97	村井美代子	内閣府 男女共同参画局総務課	男女共同参画推進連携会議議員	委嘱日～ 令和3年8月15日
98	藤枝 律子	鈴鹿亀山地区 広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会 鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会 委員	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日

99	北村 香織	三重とこわか国体・ 三重とこわか大会 実行委員会	三重とこわか国体・三重とこわか大会実行 委員会全国障害者スポーツ大会専門委員会 ユニバーサルデザイン部会委員	委嘱日～ 令和3年10月31日
100	村井美代子	三重県総務部総務課	県民功労者選考委員会委員	令和元年8月1日～ 令和5年7月31日
101	飯田津喜美	公社) 三重県栄養士会	(公社) 三重県栄養士会スポーツ委員 会委員	令和元年7月1日～ 令和3年6月30日
102	村井美代子	三重県医療保健部 健康づくり課	「三重とこわか県民健康会議」構成員	委嘱日～ 当会議解散まで
103	長友 薫輝	社会福祉法人 津市社会福祉協議会	津市地域福祉活動計画推進委員	令和元年6月1日～ 令和3年5月31日
104	北村 香織	亀山市総合政策部	亀山市新庁舎整備基本計画等検討委員 会委員	委嘱日～ 令和4年3月31日
105	木下 誠一	三重県子ども・福祉部	三重県ユニバーサルデザインの まちづくり推進協議会委員	令和元年7月12日～ 令和3年7月11日
106	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県ユニバーサルデザインの まちづくり推進協議会委員	令和元年7月12日～ 令和3年7月11日

5 地域の大学との連携

三重大学生物資源学部との連携により、三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生が参加した。

本年度は新型コロナウイルス対策として、オンラインでの参加となった。

(1) 三重大学生物資源学部との連携 農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生も参加し、生物資源学部の講義をオンラインにて受講し、三重大学の学生とも交流を深めた。

ア 農場コース【土は生きている】

- ① 月 日：令和3年8月18日（水）～20日（金）
- ② 内 容：三重大学生物資源学部との連携事業（開放授業）として「土は生きている」をテーマに、地域特産農産物などに関する知識の習得やイネの収穫、伊勢茶の加工、うどん作りなどをオンラインで学んだ。

イ 演習林コース【森は生きている】

- ① 月 日：令和3年9月14日（火）～16日（木）
- ② 内 容：「森は生きている」をテーマに、天然生林・二次林などに関する知識の習得や人工林の土砂災害、森林環境などをオンラインで学んだ。

6 学生による地域連携

本学では、およそ700人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

今年度「地域連携サポーター」制度に38名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組むが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により活動を行わなかった。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は50名であった。

(1) 地域連携サポーター制度

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており、登録学生数は38名であった。

ア 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、清掃活動は中止となった。

(2) 津市消防団学生機能別団員

同団は平成25年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

今年度も引き続き募集し、新入生50名が新たに任命され、津市消防団学生機能別団員訓練などの訓練や、津市消防本部が主催する消防出初式に参加した。



(団員訓練)

(3) 三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地域でも予想されることから、学生、教職員のほか地元自治会及び老人会合わせて約250名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。

学内では、三重県防災危機管理部防災企画・地域支援課から派遣された防災啓発車による地震体験や煙体験ハウスによる地震や火災の体験を行った。

また、津市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がAEDの使用や人工呼吸などの救急救命の実演を行った。

- ① 日 時 令和3年4月22日(木) 午前10時～午後1時
- ② 場 所 三重短期大学及び三重県総合文化センター(祝祭広場)



(耐震車体験)



(避難訓練：総合文化センター)

(4) 美化デー

- ① 日 時 令和3年11月25日(木) 12時30～13時30分
- ② 内 容 市が実施する市民清掃デーにならい、三重短期大学「美化デー」として時期を入試直前に、本学周辺の清掃を学生と教職員とで行った。
- ③ 参加数 学生・教職員45名



(5) 榊原の地域振興を考える会との連携

- ①期 間 令和3年5月～令和4年3月
- ②内 容 津市榊原地区の地域活性化の取り組み活動として、郷土料理レシピ開発に連携し、榊原地区の調理団体が調理した郷土料理の試食・意見交換を経
て、食メニュー開発に対する助言指導を行った。
- ③参 加 者 食物栄養学科 助教 飯田津喜美
- ④研 修 会 11月20日(土) 13:00～ 榊原温泉 神湯館

(6) 三重とこわか国体のぼり旗デザイン作成

国体・障害者スポーツ推進局総務企画課より、三重とこわか国体・とこわか大会開催に向け、出場する選手たちを歓迎するために市内各所に立てられる「のぼり旗」のデザインを、三重短期大学学生に依頼を受け、居住環境コースの学生が「全国から津市を訪れた人達に対してあなたが伝えたい“津市のええところ”」をテーマにデザイン案を作成した。12案が提出され、木下誠一教授と総務企画課により選考、4案16種類の「のぼり旗」が作成された。

なお、三重とこわか国体・三重とこわか大会は、新型コロナウイルス感染症蔓延により開催中止となったため、「のぼり旗」の掲出は残念ながら中止となった。

- ① 協議日 令和3年5月26日(水) 午後4時～
- ② 場 所 居住計画研究室
- ③ 参加者 国体・障害者スポーツ推進局 総務企画課 主幹 上田雅輝
主事補 佐々木弦太
三重短期大学 生活科学科 教授 木下誠一
大学総務課 主幹 酒井 健



(7) 三重とこわか国体弁当メニュー開発

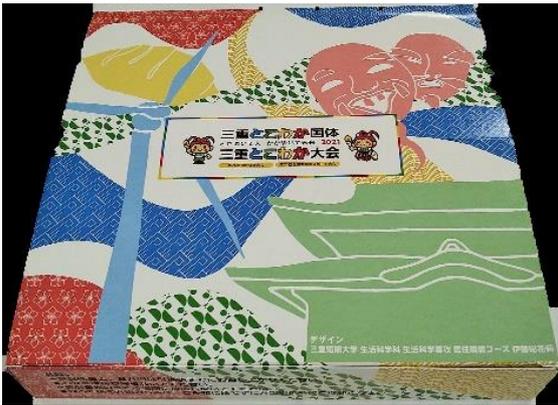
三重とこわか国体・三重とこわか大会津市実行委員会では、三重とこわか国体の弁当調達に関し、三重とこわか国体の津市開催競技において、選手・監督をはじめとした大会参加者等の昼食の手配を行う際、弁当メニューの開発について三重短期大学と協力をし、全国各地から訪れる選手・監督などに三重県・津市を知っていただけるようなメニューを提供することとなり、今年度は弁当メニューの開発を(株)寿美家と久しげよしと三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻教員及び学生で検討した。

令和2年2月三重とこわか国体・三重とこわか大会津市実行委員会弁当専門部会が津市において承認され、三重短期大学生生活科学科食物栄養専攻助教服部知美先生が委員となった。

また、国体弁当箱デザインを三重短期大学学生に依頼を受け、学内募集を行ったところ、生活科学科居住環境コース、食物栄養学科の学生から35点の応募があり、選考作業については国体・障害者スポーツ推進局競技運営課において9点まで絞り込まれ、「三重とこわか国体津市弁当箱デザイン選考実施要領」に基づき、最上位を幹旋用弁当箱、次点を支給用弁当箱のデザインとして採用された。

なお、三重とこわか国体・三重とこわか大会は、新型コロナウイルス感染症蔓延により開催中止となったため、国体弁当も中止となったが、一般販売の要望が多かったことを受け、11月26日(金)に「はみ出し鶏のごま照り焼き」を仕出し割烹しげよしによって、津センターパレス「津がんばるマルシェ」で販売された。

- ① 協議日 令和3年5月20日(木)
令和3年6月8日(火)
令和3年6月23日(水)
- ② 参加者 (株)寿美家と久しげよし 製造本部長 佐伯有香
料理長 斎藤 巧
競技運営課 競技運営課長 奥村昌弘
運営調整担当主幹 前田浩司
運営調整担当副主幹 野田恵美
主事補 鎌田慎也
三重短期大学 生活科学科 准教授 駒田亜衣
助教 服部知美
大学総務課 主幹 酒井 健
食物栄養学科 学生



II 資料

1 施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により施設開放を制限していたが、12月に施設開放を開始した。しかし、再度の感染症拡大により、再び施設開放を制限した。体育施設（体育館）については、ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの包括連携協定締結により、協定内容に準じた体育施設の開放を行った。

(1) 図書館

ア 概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…8：30～21：00 休講日（講義がない日）…8：30～17：00
休館日	土曜、日曜、休日、年末・年始（12月29日～翌年1月3日）、毎月月末、その他館長の定める日。また、1月と7月は、利用不可
利用資格	18歳以上の津市在住・在勤・在学者

イ 月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	未登録閲覧者数
令和3年4月	0	0
5月	0	0
6月	0	0
7月	0	0
8月	0	0
9月	0	0
10月	0	0
11月	0	0
12月	4	2
令和4年1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	4	2

(2) 体育施設（体育館、テニスコート、グラウンド）

ア 概要

開放日	1月5日から12月27日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	9:00～21:00		
使用料 (別途、夜間 照明料要)	体育館	9:00～18:00	1時間につき 500 円
		18:00～21:00	1時間につき 750 円
	テニスコート	9:00～18:00	1時間につき 100 円 (一面につき)
		18:00～21:00	1時間につき 100 円 (一面につき)
	グラウンド	9:00～18:00	1時間につき 1,000 円
		18:00～21:00	1時間につき 1,000 円
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者 10 人以上で構成された団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を提出し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ 月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数		
		体育館	テニスコート	グラウンド
令和3年 4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	0	0	0	0
9月	0	0	0	0
10月	1	5	0	0
11月	1	10	0	0
12月	1	7	0	0
令和4年 1月	1	14	0	0
2月	1	12	0	0
3月	1	13	0	0
合計	1	56	0	0

2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

令和3年度は、次のような研究が行われた。

【 2021 年度 研究員 申請一覧 】

●研究員

研究員名	研究テーマ	研究概要
大畑 智史	地方創生における ICT 活用	現在、日本においても地方創生の議論が活発である。東京への人口流出、少子高齢化、などの要因により衰退していく地方が日本には数多くある。そうした地方では、各種地方創生の取組みがなされているが、これは全体としてみると成功しているとは考え難い。そうした取組みにおいて重要性を高めつつある要素の一つに ICT 活用がある。こうした状況を見据えると、地方創生における ICT のより適切な活用方法を分析することは欠かせない。また、ICT 関係の技術が日々進化している現状も考慮すると、ますますその分析はなされる必要がある。本研究では、その分析に焦点を当てることとする。なお、当該分析が地方創生の議論が活発な三重県の場合においても欠かせないものであることから、本研究においては、三重県の地方創生における ICT のより適切な活用方法の分析も交えることとする。
楠本 孝	津市における来日外国人の生活実態調査	津市における来日外国人の生活実態（滞日年数、日本語習得の程度、就業の状況、健康保健等への加入の有無、子どもの就学状況、将来の展望（帰国・永住の意思など）、災害に対する備えなど）を調査し、津市の外国人政策の参考となる資料を作成する。
駒田 亜衣	三重県津市における保健指導実施者の検査値推移	平成 20 年から特定健診・特定保健指導が実施されており、三重県津市においても毎年データ解析を行い、報告してきた。これまで、特定保健指導の対象者で実際に指導を受けた場合、受けなかった場合と比較して検査値が改善していることを報告した。また、継続した 10 年間の受診データ解析も行ってきた。 津市では毎年約 1 万 6 千名が受診しており、特定保健指導も毎年実施されている。

		<p>本研究では、平成 31 年度（令和元年度）の最新のデータを用い、特定保健指導の対象となった受診者のうち、実際に保健指導を受けた人を対象に検査値の改善程度を解析する。コントロール群には、保健指導対象者であって、指導を希望せず「自分で管理する」と回答した人を設定する。</p> <p>どの検査値が有意に改善したかに加え、どのように食生活・生活習慣が変化したのかも合わせて確認し、より効果的な保健指導の在り方を明らかにする。</p>
相川 悠貴	ウェアラブル生体センサを用いた日常の体調変動の予測	<p>【背景】 近年、身体に着用しながら継続的に心拍数や温度を測定することができる機器が発達してきた。その機器により、即時の体調評価が可能になってきたが、まだ予測に用いるまでの利用方法が発展していない。</p> <p>【目的】 ウェアラブル生体センサにより採取した生体データを用いて、日常の体調変動予測方法を作成することである。</p> <p>【方法】 対象者に対し、約 1 か月間の継続測定を行う。測定期間中、対象者はウェアラブル生体センサを着用し、継続的な生体データを入手する。加えて、生活活動と体調を毎日記録する。</p> <p>【予想される結果】 体調不良が生じる際の、生体データの特異的な変化を発見する。</p> <p>【本研究の意義】 体調不良の兆候が生じた際、事前に休養を取るよう進言できる知見が得られる。それにより、体調不良による学業や勤務の欠席削減に繋がる。これは、本学学生や三重県内生徒の学力向上や、三重県内勤労者の労働生産向上に繋がる。</p>
長友 薫輝	地域の医療・介護をめぐる政策動向の分析～コロナ後を見据えた供給体制の再編～	<p>コロナ禍においても、地域の医療・介護の政策としては、以前と変わらず供給体制の再編が主軸となっている。地域医療構想と地域包括ケアシステムを両軸として政策展開がなされており、直近では公立・公的病院の再編だけでなく民間医療機関も含めた病院再編が現実のものとなりつつある。新型コロナウイルス感染症対策としても、供給体制の再編がどのような姿となるのか、注目されているところである。実際に地域の医療保障・介護保障がどのように整備されているのか。これまで関わってきた秋田県鹿角市、福岡県北九州市を中心とした地域調査結果も活用し、</p>

		三重県をはじめとする各地の医療・介護の供給体制の再編政策の展開に貢献することを目的として研究を進めたい。
高橋 彩	青年は不平等、貧困問題と政治をどのように見ているのか—政治的イデオロギーと道徳との関連—	<p>若者の政治離れ、無関心は長年指摘されている。公職選挙法が改正され、2016年から18歳以上の高校生も投票が出来るようになり、その年の参院選は、18歳51.28%、19歳42.30%という比較的高い投票率を記録したが、2017年の衆院選では18歳47.87%、19歳33.25%、2019年の参院選は18歳34.68%、19歳28.05%と、若者の投票率は全年代平均よりも低い。内閣府の「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）」によると、政治にどのくらい関心があるかとの問いに、『関心がある』と答えた13-29歳の若者の割合は、ドイツ（70.6%）、アメリカ（64.9%）、イギリス（58.9%）、フランス（57.5%）、スウェーデン（57.1%）、韓国（53.9%）に比べて、日本は（43.5%）と低かった。同調査で、日本社会の問題として、「まじめな者がむくわれない」（39.8%）、「学歴によって収入や仕事に格差がある」（35.9%）、「貧富の差がある」（32.9%）、「よい政治が行われていない」（32.9%）が挙げられていたことから、若者も格差や貧困、差別や不平等といった問題を身近に感じているものの、そうした問題意識と政治的態度や関心とが結びついていないように見える。コロナ禍においては貧困や生活保護の問題、また男女共同参画大臣による選択的夫婦別姓制度への反対署名、オリンピック委員会における女性蔑視問題など多くの格差や不平等の問題が浮き彫りになり、こうしたニュースは少なからず若者にも影響を与えたと考えられる。本研究では、経済的格差、不平等に対して、青年はどのような考えをもっているのか、その判断の個人差の要因と政治的行動についての探索的、縦断的調査を行う。Haidtらの道徳基盤理論の「他者を傷つけてしまうことへの配慮」や「公正さの重視」、共感性、社会的支配志向性、メディア接触、身近な他者、大学教育、熟慮思考といった要因を取りあげる予定である。</p> <p>三重短期大学の学生を対象とした質問紙調査と、三重県内在住の18歳から20歳の若者を対象としたWEB調査を実施(予定)</p>
武田 誠一	地域における「ゴミ出し支援」の実態と	「ゴミ出し支援」制度とは、環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課によると、「高齢者を対象とした

その課題に関する研究	<p>ごみ出し支援制度」とは、自治体のごみ出し困難な高齢者世帯から戸別にごみ回収を行ったり、あるいはごみ出しが困難な高齢者に代わってごみ出し支援を行う自治会・NPO等の支援団体に対し自治体が補助金等を支給して活動を支援する制度など、高齢者のごみ出し支援に特化した制度を指す。さらに、自治体による高齢者の見守り支援ネットワークや、高齢者世帯を対象とした生活支援事業の一環としてごみ出し支援を行っている場合など、自治体が運営・関与する高齢者世帯を対象とした在宅生活支援の仕組みの中で行われているごみ出し支援も対象としている。</p> <p>高齢者の生活支援の中で、課題の一つが「ゴミ出し」である。小島（2017）は筋力の低下や関節疾患がある高齢者にとって、大きなゴミ袋を集積所まで運ぶ作業は大きな負担であると指摘している。※小島 英子（2017）「高齢者ごみ出し支援の現状と課題」、『国民生活』（62），pp. 12-14</p> <p>また、軽度認知障害ではゴミ出しの曜日や分別のルールが覚えられない状況に陥ってしまう。なお、軽度認知障害では、要介護度の認定で公的介護保険を活用した生活支援サービスの利用が思うように活用できない場合もあり、なんらかのインフォーマルな支援がない場合は、いわゆる「ゴミ屋敷」に成りかねない。</p> <p>そのような中で、近隣住民の互助による「高齢者世帯へのゴミ出し支援」（「コミュニティ支援型」や「福祉サービスの一環型」）を制度化することは、日常生活での困り事である「ゴミ出し」問題とその支援の過程で近隣住民による見守り体制の両方を確立できる制度である。</p> <p>現在、津市では「直接支援型」による「大型家具等のゴミ出し支援」に限定されている。今後は、大型家具以外の日常の「ゴミ出し支援」が課題になるであろう。</p> <p>そのために本研究では、政府の廃棄物行政の動向、各自治体の取り組みなどを把握するだけでなく、「コミュニティ支援型」や「福祉サービスの一環型」の先行事例などを調査し、その役割、機能、課題を社会学、社会福祉学の視点から明らかにしつつ、後期近代の互助のあり方を考察する。</p>
------------	--

●奨励研究員

奨励研究員名	研究テーマ	研究概要
長友 薫輝	コロナ禍における社会福祉援助技術の地域実践と VR 等の活用	<p>コロナ禍において、ソーシャルワーク教育のオンライン化が進展している。本学においても 2020 年度から社会福祉士養成教育に関して、オンラインによる代替実習を実習先の施設・機関とともに実践を積み重ねてきた。Zoom や Google meet を活用し、実習先と学生・教員を結んで実習を行っており、最近では社会福祉施設の実習指導者がスマートフォンで動画を撮りながら、施設内を移動し施設利用者や職員との対話による工夫を行える段階となった。そこで、VR などさらなる ICT の活用によるソーシャルワーク教育のあり方を模索し、可能性を追求したい。なお、実習先には社会福祉施設だけでなく、地域福祉活動を主軸とする社会福祉協議会も含まれていることから、地域実践の現場においても ICT の活用を進め、コロナ禍での住民主体のまちづくりをどう進めるか。社会福祉士養成教育の現場から、地域とともに発信する契機としたい。</p>
特別研究員名	研究テーマ	研究概要
茂木 陽一	三重県域における近世から近代への児童保護の転換について	<p>①神宮領を事例とした棄児の発生と保護の実態を元禄から明治初年について検証する</p> <p>②篤志家としての商家経営の論理を松坂商人、三井家について検証する</p> <p>③棄児多発地帯としての九州地域(長崎・福岡・熊本)と三重県域との比較を棄児慣行とマビキ慣行との関連について検証する。</p> <p>①については、旧三重県史編纂室架蔵の内宮領朝熊村の年寄日記の記事から、時期的な変動を考える。</p> <p>②については、長谷川家文書(NPO 法人松坂歴史文化舎寄託)長井家文書(津市石水博物館所蔵)から松坂商人について、三井家育児方関係史料(三井文庫所蔵)から三井家について夫々検討する。</p> <p>③については、長崎県は島原藩庁日記により島原地域の事例を、福岡県については、九州大学九州文化史研究所所蔵大庄屋文書により小倉藩地域の事例を、熊本県庁文書により天草地域の事例を、夫々収集・分析して、三重県域との比較を行う。</p> <p>以上の作業を踏まえて表記の研究テーマの解明を行う。</p>

<p>岩田 俊二</p>	<p>明治期以降の農村居住環境整備の発展過程に関する研究 — 特に明治初期耕地整理から戦後開拓まで —</p>	<p>農村の居住環境整備史を耕地整理法の時代, 土地改良法の時代を通して著すことを目的にしている。農村整備は昭和 45 年ごろから本格的に農政の課題となり実施されてきており, その経緯については『豊かな田園の創造 農村整備事業の歴史と展望』(農村整備事業の歴史研究委員会編, 日本農業集落排水協会, 1999 年)等に明らかにされている。</p> <p>また, 耕地整理や土地改良事業については『土地改良百年史』(今村奈良臣, 平凡社, 1977 年), 『農業土木史』(農業土木学会, 1979 年 5 月)等が著されている。しかし, 明治初期から戦後開拓あたりまでの旧耕地整理法の時代における農村居住環境整備の歴史についての著作は見当たらないので, 特に明治初期から戦後開拓までの期間の農村居住環境整備の歴史について調査研究を行う。方法は同期間の農村居住環境整備の歴史について文献資料から通時的な分析を行うとともに, その分析の中から特徴的な事例地区を選択し, 分析を行う。</p> <p>2019 年度は明治初年の静岡式の田区整理事例として静岡県袋井市田原地区・磐田市の該当地区, 石川式の田区整理事例として金沢市上安原の事例, 明治期耕地整理法施行後の耕地整理の全国モデルとなった埼玉県鴻巣市常光地区の事例を調べた。</p> <p>2020 年度は戦前戦後の開墾開拓地区の居住環境整備の整備方針を検証し, 事例地区を選定し現地調査を行う予定であったが, コロナ禍のために明治期の耕地整理法制定直後の耕地整理地区の事例として埼玉県鴻巣市だけ現地調査した。</p> <p>残余は 2021 年に調査する。最終的な研究成果は農村居住環境整備の通史部分と特徴的な地区の個別史部分を併記し農村居住環境整備の歴史を明らかにするが研究の狙いは個別史部分に置くこととしているが, 全体的に研究の進行が遅れているので, まとめは遅延する見込みである。</p>
--------------	---	--

3 令和3年度 三重短期大学出前講座 テーマ一覧表

No	テ ィ マ	概 要	講 師	備 考
1	イギリスの文学や 絵画にみる死生観	「平家物語」などの日本の古典文学に多い、生のはかなさや死への想いは、日本固有のものではありません。イギリスの詩や演劇、絵画の中に死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	学長 村井美代子	
2	「赤毛のアン」を 読み直す	1908年の出版以来、世界中で親しまれている「赤毛のアン」。出版直後から次々に続編が書かれ、仕事を持って結婚し、母になるアンの姿が描かれます。女性が才能を開花させ、仕事と家庭を両立させていくことのむずかしさを、主人公アンの姿と作家モンゴメリの素顔を通して考えてみましょう。	学長 村井美代子	
3	あらすじで読み直 すイギリス小説	「フランケンシュタイン」や「透明人間」、「タイムマシン」、「ガリバー旅行記」など、タイトルが半ば固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。本来のストーリーをたどると、聞き慣れたタイトルから描くイメージとは異なる小説世界が見えてくるかもしれません。	学長 村井美代子	
4	「拘禁刑」とは何 か？	懲役刑、禁錮刑の区別をやめて「拘禁刑」に一本化する刑法改正が閣議決定されました。1907（明治40）年制定の現行刑法最大の改正をどう評価すべきか、考えます。	法経科 教授 楠本孝	
5	ヘイトスピーチに ついて	「ヘイトスピーチ解消法」やヘイトスピーチに対する川崎市など先進自治体の取組を紹介し、憲法との整合性を検証します。	法経科 教授 楠本孝	
6	少年非行について	巷間言われる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は本当か？犯罪統計を基に検証します。 また、18歳19歳を「特定少年」として厳罰化する少年法改正について解説します。	法経科 教授 楠本孝	
7	地方議会改革の取 り組み	今日の地方議会は十分にその機能を果たしていないといった批判があります。そこで、地方議会自らも前向きな改革に取り組んでおり、多くの自治体において「議会基本条例」の制定を目指す動きもみられます。ここでは、三重県議会における議会基本条例を素材に、地方議会の改革の具体的な取り組みを紹介します。	法経科 教授 藤枝律子	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
8	六法を引いてみよう	現代社会において、ある程度の法的知識を身につけておくことは非常に大切なことです。とはいっても、六法をめくってみると、文字ばかりで、なんだか難しそうな文章が並んでいるし、読む気にもならない、と思われるかもしれません。本講座では、六法を実際に引いてみて、六法の使い方を学んでいただこうと思います。何か面白い発見ができるかもしれません。	法経科 教授 藤枝律子	
9	国家賠償法とその判例	国家賠償法は、国や地方自治体の損害賠償責任に関するルールを定めています。国家賠償法の紹介をしながら、判例を取り上げ、国賠のもつ社会的な役割を考えます。	法経科 教授 藤枝律子	
10	行政のデジタル化	行政のデジタル化などのデジタル改革が進められています。その本質であるDX（デジタル・トランスフォーメーション）とは何か、またどのように行政のデジタル化と向き合っていけば良いのか、その課題について考えます。	法経科 准教授 川上哲	高校生も 対応可
11	東京都政とは何か？	東京都は日本で唯一の特別な行財政制度を有しています。通常の道府県と比べて何が違うのか。そしてなぜ東京だけが独特の行財政制度を有しているのか。東京一極集中が進む中で、改めて「東京」とは何かを考えます。	法経科 准教授 川上哲	高校生も 対応可
12	知っておきたい契約に関するルール	民法には私達が実生活でよく遭遇する契約トラブルを解決するためのルールが数多く存在します。お茶を買ったはずなのに袋を開けるとジュースが入っていた、テレビを買ったら画面にひびが入っていた、友人からの儲け話に乗ったらお金を騙し取られてしまった、といったような具体例を挙げながら民法による契約トラブルの解決について解説します。	法経科 講師 照井遥瑛	高校生可
13	知っておきたい相続に関するルール	民法には私達がいずれは関わることになる相続についてのルールが数多く存在します。2021年の法改正によって新設されたルールを中心に、具体例を挙げながら民法による相続トラブルの解決について解説します。	法経科 講師 照井遥瑛	高校生可
14	基本的人権の保障	日本国憲法において保障される基本的人権について、その種類や性質について解説します。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生可
15	選挙権について	国家と市民の関係について、選挙権をキーワードに考えます。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
16	ワークルールと権利意識	労働条件の引下げやリストラ、ハラスメントなど、職場での問題が地域の問題の一つとして挙げられます。このような問題に直面した際、立ち往生や泣き寝入りせざるをえない人も、少なくないのではないでしょうか。本講座では、重要なワークルールと、それを支える権利意識をもつことについて、考えます。	法経科 講師 西川昇吾	
17	労働組合の活用法	私たちの国の最高法規である日本国憲法は、勤労条件に関する基準を法律で定めること（27条2項）で十分とするのではなく、勤労者の団結権・団体交渉権・団体行動権（28条）をも保障しています。本講座では、労働組合を活用し、自分自身でも、よりよい職場を形成するためのルールについて、考えます。	法経科 講師 西川昇吾	
18	TPP と日米貿易協定	日本は、米国が TPP から脱退したあと残りの 11 カ国に呼びかけ TPP11 を成立させ、米国とは個別に貿易協定を締結しました。こうした大型の貿易協定が日本経済と私たちの生活に与える影響をお話しします。	法経科 教授 石原洋介	
19	日本銀行の異次元金融緩和は持続可能か？	日本銀行は 2013 年からアベノミクスに連動する形で異次元の金融緩和を続けています。しかし、マイナス金利も導入したのに、インフレ目標の達成すらできません。この政策は有効なのでしょうか？そして、副作用や持続可能性はあるのでしょうか？	法経科 教授 石原洋介	
20	フェアトレードの挑戦	長年の先進国や国際機関からの援助にもかかわらず、世界にはまだ多くの貧しい人々が存在します。近年注目を集める、公正な取引を通じて貧困問題を解決する手法、フェアトレードについてお話します。	法経科 教授 石原洋介	高校生向け
21	税とは何か	税金は、われわれの日常生活に非常に密接な関わりがあります。本講義では、なぜ課税されるのか、など、税金に関する根本的な考え方について分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	
22	税制における ICT 活用	日本でも税制における ICT 活用が本格化してきています。本講義では、そうした ICT 活用に関する、現状と今後の課題とについて、記入済み申告制度、マイナンバー制度、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	
23	消費税増税の性質を理解する	消費税増税は日本でもよく議論されています。本講義では、租税負担の公平性の視点からみた消費税増税の性質などのその各種性質を、消費税の歴史、消費税の構造、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
24	内部留保の経営分析	近年、企業の内部留保が拡大しています。決算書の読み方の基礎から講義をはじめ、企業の内部留保とは何か？なぜ増加しているのか？研究データとともに解説します。	法経科 准教授 田中里美	
25	決算書の読み方	企業の決算書の読み方を講義します。身近な企業の決算書をみんなで読んでみましょう。	法経科 准教授 田中里美	高校生も対応可
26	応能負担という考え方	新型コロナウイルスの蔓延により、多額の税金が使われています。今後、増税が予想されます。どのように税金を徴収することが望ましいのか、応能負担という考え方に基づいてみんなで考えてみましょう。	法経科 准教授 田中里美	
27	日本の社会的統合の在り方	どのような社会であれ、その社会が安定するには一定の形で社会全体が統合されている必要があります。日本はどのような形でそれを行ってきたか、そしてどのように変化しているのかをお話しします。	法経科 准教授 田添篤史	
28	経済学とは何か	経済学にはいくつかの学派が存在します。それぞれがどのような特徴をもっているのかを、経済学の歴史を振り返りながら解説します。	法経科 准教授 田添篤史	
29	私たちの生活と「働く」こと	現在、労働を取り巻く環境は大きく様変わりしています。生活と密接な関係にある「働く」ことについて変化の推移をたどりながら、問題や課題について考えたいと思います。	法経科 准教授 浅野和也	高校生可
30	経営学とは何か	経営学は主に企業を対象にした学問です。企業活動から見える社会の成長や生活への影響について考えてみたいと思います。	法経科 准教授 浅野和也	高校生可
31	サービスマーケティング—サービスとは何か—	近年サービス業の増加により、目に見えないサービス商品の提供が増加しています。そこで企業はマーケティング戦略において「サービスとは何か」考える必要があります。様々な事例を使って説明していきます。	法経科 講師 鷺尾和紀	
32	10代から学ぶパーソナルファイナンス—ライフプランを考えよう—	将来自分はどうなりたいのか。生活していくにはさまざまな費用がかかってきます。自分の将来設計を考えながらお金にまつわる話をしていきたいと思っています。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生向け
33	マーケティング戦略—ブランド論—	皆様がよく手にするブランド品、これはマーケティングという商品開発から派生しています。その本来のブランドの意味を説明していきます。また「地域ブランド」と呼ばれているものも取り上げます。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生 社会人

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
34	音楽を通してみるドイツ語の詩	ゲーテの詩をもとシューベルトが作曲した歌曲『魔王』は非常に有名で、音楽の授業で聴いたことがあるかもしれませんが。しかしこの他にも様々な『魔王』が存在します。この詩と歌曲の成立についての解説と歌曲の鑑賞を通してドイツ語と音楽の響きとリズムを味わいたいと思います。	法経科 准教授 今本幸平	
35	歌曲『ローレライ』成立の背景	日本語唱歌としても知られるドイツ歌曲『ローレライ』は、19世紀にドイツで沸き起こった合唱ブームの中から生まれました。ドイツにおける合唱運動とはどのようなものか、また耳に馴染みのある旋律ほどには知られていない作曲者ジルヒャーや詩人ハイネの紹介と合わせて、この曲の成立の背景についてお話しします。	法経科 准教授 今本幸平	
36	ビタミンとミネラルの話	食品中には、いろいろなビタミンやミネラル（無機質）が含まれています。食生活を豊かにするためには、それらの栄養素の働きを知ることは大切です。各ビタミンとミネラルについて、体内での働きや多く含まれる食品についてわかりやすく解説します。	食物栄養学科 教授 橋本博行	
37	いろいろな食中毒と予防方法	食中毒として、カンピロバクターなどの食中毒菌やノロウイルスが原因のものがあります。一方、ジャガイモの芽などの動植物に含まれる自然毒が原因の食中毒もあります。安全な食生活を送るために、具体的な食中毒の事例と予防方法について説明します。	食物栄養学科 教授 橋本博行	
38	メタボリックシンドロームの現状と食生活による予防	メタボリックシンドロームはなぜいけないのか？体の中で行われる代謝の仕組みから考え、食生活による予防を目指します。 自分自身で実行可能な行動目標を立てていきます。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	
39	食事をバランスよく食べよう！	バランスよく食べるためにはどうしたらいいのか？ 食事バランスガイドを使って、自分の食事内容を見直し、バランスのよい食事を目指します。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	
40	栄養士・管理栄養士とは？	栄養士・管理栄養士の仕事内容、栄養士・管理栄養士の活動の歴史など、栄養士や管理栄養士が身近に感じられるようなお話です。 栄養士を目指す学生に、本学食物栄養学科の講義内容や在学生の様子なども合わせて紹介します。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	高校生も 対応可
41	特定健診受診のすすめと地域の健康課題	平成20年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。津市では毎年約18,000名近くの方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。	食物栄養学科 准教授 駒田亜衣	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
42	海外での栄養士活動	開発途上国で JICA 青年海外協力隊の栄養士として過ごした2年間の活動を報告します。 ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。	食物栄養学科 准教授 駒田亜衣	高校生も 対応可
43	三重県の食状況について	三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施された県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国とも比較しながらご紹介します。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、問題点や課題について一緒に考えたいと思います。	食物栄養学科 准教授 駒田亜衣	
44	健康のための運動と食事	健康に生活するため、運動と食事は重要です。運動と食事が、脳、筋、脂肪、骨などに及ぼす影響について説明し、身体を強くするために取り組んで頂きたい活動について紹介します。	食物栄養学科 准教授 相川悠貴	高校生も 対応可
45	競技力向上のための栄養	スポーツの競技力を向上させるために、栄養は重要です。競技や目指す身体によって、理想の食事や栄養補給方法は異なります。「バランスの良い食事をしましょう。」に留まらないお話をしていきます。	食物栄養学科 准教授 相川悠貴	高校生も 対応可
46	骨の健康を守るために	骨量は年齢とともに減少し、骨折しやすい状態になります。特に女性はホルモンの変化により骨量の減少が顕著です。骨の健康を維持するための食習慣、生活習慣についてお話しします。	食物栄養学科 講師 杉野香江	高校生も 対応可
47	自分に必要な栄養量を考える	人はそれぞれ必要なエネルギーや栄養素の摂取量が異なります。理想的な体重や、厚生労働省による日本人の食事摂取基準を確認しながら、自分に必要な栄養と食事、さらに健康づくりについて一緒に考えます。	食物栄養学科 講師 杉野香江	高校生も 対応可
48	ロコモを調べてロコモ予防	ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ）とは運動器の障害により、移動機能の低下をきたした状態をいいます。ロコモ度テストで年代相応の移動機能を維持できているか確認し、ロコモ予防のための生活習慣について考えます。※体験型の講座のため、会場の広さや参加人数によって実施できない場合があります。	食物栄養学科 講師 杉野香江	
49	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、食による健康保持・疾病予防の必要性が高まっています。 旬の食材を用いた調理実習、味噌汁の食塩量調べなどの実習を通して食からはじめる健康づくりのポイントをお話しします。	食物栄養学科 助教 飯田津喜美	高校生も 対応可
50	食物からのDNA抽出実験	身近な食材（鶏レバー）からDNAを抽出して白い糸状の沈殿を観察してみましよう。（時間に応じてパワーポイントスライドを併用し実験操作を短縮することも可能です。）	食物栄養学科 助教 飯田津喜美	高校生 向け

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
51	保健機能食品を利用してみよう	健康の維持増進の観点から、国の管轄のもと販売されている保健機能食品のうち、主に「特定保健用食品」「機能性表示食品」について概説しながら、レシピ等日常生活での活用方法を提案します。	食物栄養学科 助教 服部知美	
52	生活習慣病の予防	健康に影響を及ぼす食生活、運動、飲酒、喫煙、睡眠等生活習慣の改善策について、年齢層に応じて幅広くお話をいたします。また必要に応じて、メタボリックシンドロームと特定保健指導について、事例も交えながら解説いたします。	食物栄養学科 助教 服部知美	高校生も対応可
53	DNAと健康	DNAの基本的な知識からDNAの役割、近年普及しつつある遺伝子検査とはいったい何なのか、遺伝子に変異があると何が起こるのかについてお話します。	食物栄養学科 助教 福安智哉	
54	腸内細菌叢とは？	最近、腸活が話題ですが腸内細菌叢についてどこまで調査がなされているのか、本当に変わるのかを最新の研究結果を踏まえてお話します。	食物栄養学科 助教 福安智哉	
55	ユニバーサルデザインのまちづくり	ユニバーサルデザインの考え方を学びながら、誰もが暮らしやすいまちづくりには具体的にどのような方法があるのかを考えます。同時に「障がい」とは何かについても一緒に考察できればと思います。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も対応可
56	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもとき、実際の制度を紹介しながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も対応可
57	病院で「もうすぐ、退院です」と言われて慌てないために…	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前に知っておきませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
58	ソーシャルワーカーという仕事	ソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）とは、どのような仕事なのか？活躍するフィールドを示しながら、その役割を詳しく説明していきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	高校生向け
59	地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること	国は「自助・互助・共助・公助」による地域包括ケアシステムの整備を進めています。特に近隣住民による「互助」が強く求められています。そこで、私達の地域で何が可能か考えてみませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
60	人を援助する「私」を知る	地域で福祉ボランティアを始める際に理解しておくべき、対人援助場面でのコミュニケーションのあり方、心構えなど学びます。 そして、他者を支援する「私」を知ることの重要性を考えていきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
61	援助のキホンー 専門職の援助観 を考えるー	この講座は、対人援助の現場で働く方向けに、人を支援する専門職の援助観を考えていくものです。 施設、事業所内での職員研修などを想定しています。	生活科学科 准教授 武田誠一	
62	社会福祉の楽しさ を知ろう	皆さんは、社会福祉と耳にするとどのようなイメージを抱くでしょうか。子どもや高齢者、障がいのある人などの分野の枠を超え、社会福祉とは何かについて、楽しく一緒に考えたいと思います。	生活科学科 講師 田中武士	高校生も 対応可
63	安心できる生活の ために～社会保障 制度を知ろう～	現代社会における私たちの日々の暮らしは、病気や失業などで生活が困難になってしまう可能性が常にあります。そのようなときでも、安心できる生活を保障するのが社会保障制度の役割です。とても大切なこの制度について、やさしく解説します。	生活科学科 講師 田中武士	高校生も 対応可
64	心理学的観点から 道徳について考え よう	私たちの暮らす社会は、犯罪や迷惑行為など「悪い」ニュースにあふれている一方、人道的支援やボランティアなど「善い」行いも多く行われています。具体的な課題や身近な話題を通して、心理学の観点から道徳的判断の起源や個人差を考えていきます。	生活科学科 准教授 高橋 彩	高校生も 対応可
65	自分はどんな性格 なの？ パーソナリティ心理 学	パーソナリティテストを用いて、自分自身の性格を測定し、自己理解に役立てます。そうしたテストがどのような理論に基づいて作成されているのかも解説します。	生活科学科 准教授 高橋 彩	高校生も 対応可
66	生物多様性を考える	生物多様性の破壊は、地球温暖化問題と並んで、人類にとっての最重要課題となっています。震災と原発事故以降注目されることが少なくなったようですが、問題の重要性や深刻さが解消されたわけではありません。 「生物多様性とは何か」「なぜ保全が必要なのか」「何が求められているのか」といったテーマについて解説します。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
67	外来生物問題の環 境倫理	生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
68	共に住まう集合住 宅	家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。	生活科学科 教授 木下誠一	
69	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 教授 木下誠一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
70	コミュニティと住民参加	全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代に、その必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業や公園づくりのワークショップを事例に、コミュニティの形成などに向けた、住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	高校生も 対応可
71	都市計画とまちづくり ～持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けて～	まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を解説しながら、都市づくりやまちづくりに必要な都市計画法・制度等についてやさしく紹介します。 また、人口減少化時代における持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けた取り組みを考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	
72	まちづくりと景観計画	全国各地で都市景観の乱れが進行している中、環境問題や生活の豊かさへの関心の高まりとあわせて、都市景観づくりに対する市民の意識が高まっています。ここでは、魅力あるまちづくりの一環としてアーバンデザインの考え方やまちづくりと景観計画について紹介します。	生活科学科 教授 小野寺一成	
73	機械翻訳の仕組みについて	近年、Google 翻訳、DeepL 翻訳の翻訳性能が向上し、コンピュータによる翻訳（機械翻訳）が注目されている。現在の機械翻訳の仕組みについて解説します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生も 対応可
74	プログラミング教育で何が変わるのか？	プログラミング教育の必修化により、プログラミングへの関心が高まっています。 プログラミング教育とは、どのようなもので、どのような能力が身に着くのか解説します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生も 対応可
75	人工知能の現状と近い将来	ディープラーニングによって人工知能が急速に進化しており、それにより社会が大きく変わろうとしています。人工知能が今できること、近い将来起こることについて紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生も 対応可

2021年度(令和3年度)
三重短期大学地域連携センター年報
令和4年12月

発行 津市立三重短期大学 地域連携センター
〒514-0112 三重県津市一身田中野 157 番地
TEL 059-232-2341 FAX 059-232-9647
E-mail 232-2341@city.tsu.lg.jp